



2015 鈴鹿・近畿選手権シリーズ第4戦 鈴鹿4時間耐久ロードレース

観客動員数：33,000人（土曜日）

#104 福間勇二/大田孝志組 予選：48番手 決勝：42位

#014 野近幸紀/門馬巧実組 予選：11番手 決勝：DNF

一時は2番手まで浮上も残念ながらリタイア

2015年も土曜日に行われた鈴鹿4時間耐久ロードレースには鈴鹿8耐で総監督を務める福間勇二がTOHO Racing clubからエントリー。大田孝志とペアを組む。またエースチームとしてゼッケン014をつける野近幸紀/門馬巧実組が参戦し、今年も2台体制で鈴鹿4耐に臨んだ。門馬は今年始めに開催したTOHO Racing走行会に参加。レースをやりたいと積極的に売り込んできた広島出身の15歳のライダー。SRS-J（鈴鹿レーシングスクールジュニア）に通っているがロードレースの経験はなかったが、TOHO Racingとして広島の若手ライダー育成は、行っていきたいことのひとつだったこともあり、今回の起用を決めた。

金曜日に行われた公式予選は、一番暑い時間帯に、まず第2ライダーのセッションが行われた。ここで門馬は2分19秒112を出し6番手と健闘。太田は2分26秒860で49番手につけた。そして第1ライダーのセッションは日も傾き始めた17時35分から始まった。ここで野近は2分22秒511と思うようにタイムを伸ばせず28番手。福間は2分25秒599を出し42番手につけ、予選通過を決めた。グリッドは2人の合算タイムで決まるため野近/門馬組が11番手、福間/太田組が48番手グリッドからスタートすることになった。



朝から厳しい暑さとなった土曜日。予定通り9時にスタートし、#014は10番手辺りについていたが、徐々にポジションを上げ1時間が経過した時点では2番手までポジションを上げていた。しかし、2時間半を過ぎた辺りで門馬がライディングしているときにマシントラブルが発生。何とかピットに戻って来るが再スタートできる状態ではなかったためリタイヤを決めた。#104は順調にラップを重ね、後はチェッカーを受けるだけという最後のステイントに福間が出て行く。そのまま無事に42位でゴールしたように見えたが、実はヘアピンでコースアウトし転倒。再スタートし、そのまま走行を続けていたという事実がゴール後に発覚していたのだった。

江口 謙 TOHO Racing club監督

「福間代表とは広島の手前ライダーを育てようという話しは以前からしていましたが、たまたま知り合った門馬と鈴鹿4耐をやることになり、チームとしても“ライダーを育成する”という課題をクリアするために試行錯誤している部分もありますが、今回の経験で“ライダーを育成する”という土台ができたと思います。門馬にとっても今回の鈴鹿4耐が初のロードレースでしたから不安要素はありましたが、SRS-J出身だけに鈴鹿は走りやすかったみたいですね。ペアを組んだ野近選手も器用なライダーなので助かりました。福間/太田組は、転倒もあったみたいですが、3年連続で完走してくれたのでよかったです。今年もサポートしていただいた全ての方に感謝いたします」